メイドカフェ『きらく』の日常

瑠果

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
メイドカフェ『きらく』の日常

【Ｎコード】
Ｎ１３１４Ｚ

【作者名】
瑠果

【あらすじ】
※キャラフレにて掲載※
高校生・赤井梨緒の青春らぶ（？）コメディー。お兄ちゃん・寅次郎・ツカサ……梨緒の本命は、誰？！

その１（前書き）

主人公・赤井梨緒（あかいりお）は高校生。学校から帰ると母の経営するカフェ『きらく』に出勤する。いわゆる勤労学生。

その1

ダルい。ダルい。
「はぁ…」
新学期で、クラス替えがあり、階段を上がる度に息切れが…

「おはよう」
目の前には、見慣れた顔がいた。
「梨緒(りお)〜♪またクラス一緒だよぉ〜」
見た目は整ったハーフの顔して、名前は…
「寅次郎(とらじろう)、邪魔だ」
寅次郎を上回る美形が現れた。
「……梨緒？……」
う、ん？

「ただいまぁ」
いつもの戦闘服(メイド)に着替えて、
「遅いっ」
実母にコキ使われる毎日。
「遅くないでしょ？」
ニコリと微笑むお兄ちゃんが、唯一の癒しであったりする。

「梨緒、大丈夫？」
心配してくれるのは、お兄ちゃんだけだよぉ。
「梨緒〜、チャーハン食べたいぃ〜」
ついさっき聞いた聞き覚えのある声の主を見る。
「寅次郎、それは注文？」
若干、ギロッと流し目で睨んだ……のかなぁ？

「俺、そういうの、嫌いじゃないから……」
照れる寅次郎をニヤリと観るお兄ちゃん。
「寅次郎、そういう趣味なのか？」
より一層顔を赤らめながら、怒る寅次郎をよそ目に、
「梨緒、いつものお願い…」
耳元で囁くから、恥ずかしくって、耳がくすぐったくて…
「はぁ～いっ」
絶対、顔、真っ赤だよぉ。

「俺の将来のヨメさん、ですけど??」
は？
「寅次郎、梨緒は……」
さわやかな笑顔で、チャーハンを私の身体ごと引き寄せる。
「俺の、だから」
声のトーンを低めで、顔を近付けるお兄ちゃんに、
「ち、違うっ」
ジタバタするけれど、嫌ではないから顔がニヤける。

「いっ、いらっしゃいませ～っ」
ニヤけながら、出入り口を振り返ると……
「梨緒……？」
ココら辺では見ないカッコいい人が。しかも、私の名前を知ってる。
「そ、そうですけどぉ…??」
どちら様でしょうか??

『梨緒。お隣に住んでたツカサだよ。ツ・カ・サッ』
無愛想に寅次郎が、窓から見える隣の更地を指差す。
「……」

ツカサって、中性的で可愛いコだったと思うんだけどぉ……？？
「昔の思い出は美化されやすいモノだからなぁ～」
「だねっ」
こういう時だけ、寅次郎とお兄ちゃんは仲良しさん。

「覚えてない、だろ……？」
首を傾げて、不満そうにパンケーキを食べるツカサ。
「お、憶えてるよっ…」
ただ、あまりにもカッコ良すぎて…
「嘘だぁ～」
「本当だってばっ！！」
不貞腐れてテーブルでゴロゴロし始める始末。

「ツカサぁ…好きだったもん…」
あくまで、過去形。
「過去形かぁ……」
ますます落ち込んでうなだれるツカサを
「今のツカサも好きだよぉ？」
直視できないくらい今でも、大好きだもん……。

その2（前書き）

梨緒（りお）の幼馴染、緑井（みどりい）・C・寅次郎（とらじろう）は、訳アリの独り身生活にて、メイドカフェ『きらく』の常連さん。

その2

スゴク幸せな気分。
「緑井、ニヤけ過ぎ……」
隣で、羨ましく白目で…って白目っ！！
「別に、お前ら……って事もないんだろ??」

「おはよう」
目の前には、愛しのマイスイートハニィが。
「梨緒(りお)〜♪またクラス一緒だよぉ〜」
軽く抱擁しようとしたら、

「寅次郎、邪魔だ」
思いっきり、拒否された。
「……梨緒?……」
「は、い?」
ハツコイのカレなのに、ド忘れっ?!

「梨緒〜、チャーハン食べたいぃ〜」
最近、学校と『きらく』の往復な日々。
「寅次郎、それは注文?」
若干、Sっ気のあるメイド姿の梨緒に……照れる。

「俺、そういうの、嫌いじゃないから……」
隣に目をやると、紫雲寺(しうんじ)センセイの顔が。
「寅次郎、そういう趣味なのか?」
「なワケあるかっ」
否定したものの、嫌いではない自分がいる。
『梨緒はどっちかと言うとMだよ?』

耳打ちされて、暫く茫然(ぼうぜん)としてたら、今度は梨緒が犠牲者になる。

「俺の将来のヨメさん、ですけど??」

ヨメというより、ダンナ……かも?

「寅次郎、梨緒は……」

さわやかな笑顔で、チャーハンを梨緒の身体ごと引き寄せる。

「俺の、だから」

「ち、違うっ」

顔が悦んで、相変わらず表裏のない梨緒に接客はムリだとつくづく思い、溜め息と同時に自動ドアが開く。

「いっ、いらっしゃいませ〜っ」

出入り口を振り返ると……

「梨緒……?」

昔馴染みのツカサが、

「そ、そうですけどぉ…??」

完全に、梨緒の記憶から抹消?

『梨緒。お隣に住んでたツカサだよ。ツ・カ・サッ』

窓から見える隣の更地を指差す。

「……」

ツカサの事自体、憶えているのだろうか…?

「昔の思い出は美化されやすいモノだからなぁ〜」

「だねっ」

紫雲寺センセイの言うとおりで、美化しているのならば……。

「覚えてない、だろ……?」

ツカサの顔は『不満』の文字いっぱい。

「お、憶えてるよっ…」

照れてる梨緒は、逃げるように厨房に戻っていく。

「嘘だぁ～」
「本当だってばっ！！」
ツカサのにんまりとした笑顔……。何か卑怯。

「ツカサぁ…好きだったもん…」
過去形かよ。
「過去形かぁ……」
本当に残念がるツカサに、何となくニヤリとしてしまう。
「今のツカサも好きだよぉ？」
今でも？！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1314z/

メイドカフェ『きらく』の日常

2011年12月31日17時45分発行